

四季の風



■発行責任者／病院長 金岡 祐次
■編集 集／大垣市民病院広報・企画委員会

広報 第57号

●発行 平成29年1月1日●

理 念

患者中心の医療・良質な医療の提供

診療部

専門医が教える家庭の医学

インフルエンザについて

呼吸器内科 野田 純也

インフルエンザの流行時期になりました。症状・予防法・合併症などに関して、気をつけて頂きたいことをまとめてみました。

インフルエンザは、1～3日間程度の潜伏期を経て、突然の高熱、咳、喉の痛み、鼻水、筋肉痛、頭痛などの症状が出てきます。下痢や嘔吐など消化器症状を伴うこともあります。合併症がなければ通常2～5日程度で軽快していきます。

しかし、小児（5歳未満）・65歳以上の方・妊婦・喘息や心臓病、腎臓病などの持病のある方などでは重症化することがあるとされています。小児では脳炎、高齢者などでは肺炎を合併することがあり、重症化して死にいたることもあります。日本だけでも年間で、1～4万人の方がインフルエンザで亡くなっていますので注意が必要です。

インフルエンザの診断には「迅速検査」が行われ、A型かB型かまでは短時間で判定が可能です。ただし、発症後数時間で検査を行うと偽陰性（インフルエンザなのに検査は陰性）となることもあります。この場合は周りの状況と症状のみから診断を下すこともあります。

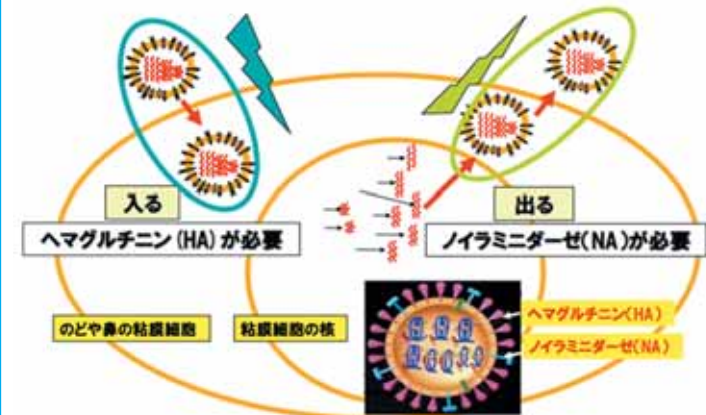
一般にウイルス性疾患に対して治療薬はありませんが、インフルエンザについては、タミフルやリレンザ、イナビルなどの内服薬・吸入薬の他、点滴のラピアクタという薬が使用可能となっています。いずれの薬剤もウイルスが

増殖するのを抑えることで効果を示しますので、症状が出てから48時間以内に使用して初めて効果があります。

インフルエンザの予防法のひとつとしてワクチン接種があります。去年からA型の2種（香港型のH3N2とH1N1 pdm09）とB型の2種（ビクトリア系・山形系）の合計4種類のインフルエンザウイルスに対する4価のワクチンが利用されています。まだワクチン接種を受けていない方は、今からでもワクチン接種を受けることをお勧めします。ワクチン株と流行株が一致した場合には発病防止効果が50～80％とされ、また、ワクチン接種により発病しても重症化を抑えることができるとされていますが、完全ではありません。ワクチン接種以外に、外出時のマスク着用、うがい、アルコール消毒、手洗いなどの一般的な予防策も必要となります。もし、インフルエンザに罹ってしまった場合には、周囲の方へうつす恐れがありますので、咳エチケット（マスクの着用、咳をする際にハンカチで口を覆う、手で直接覆った場合は手を洗う）をお願いします。また、熱が下がっても、咳が出ている時期はまだ人にうつす可能性がありますので、できるだけ外出は控えてください。

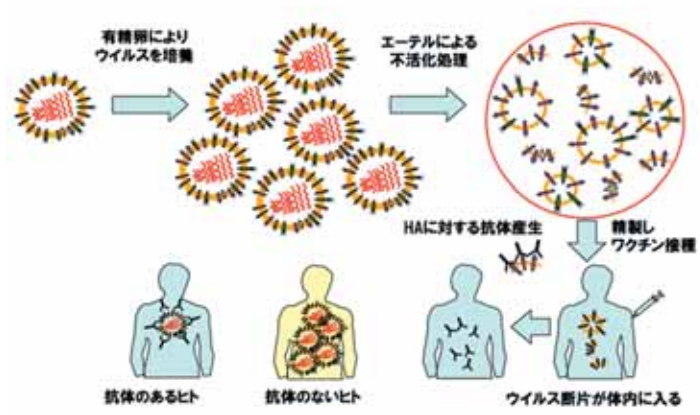


インフルエンザウイルスの感染・増殖



ノドや鼻の粘膜細胞にインフルエンザウイルスが入り込む時にヘマグルチニン（HA）が必要となり、増殖したウイルスが細胞から出る時にノイラミダーゼ（NA）が必要となる。

ワクチンによる治療



ワクチン接種によって産生された抗体により、体内に入り込んだウイルス増殖が抑えられ、重症化が予防できます。



緩和ケアセンターを開設しました

医療ネットワークセンター・緩和ケアセンター センター長 進藤 丈



「がん」と診断された時、「不安で眠れない」「痛みが取れない」「呼吸が苦しい」「食欲が落ちた」「治るのか」「なぜわたしが……」……様々な苦痛、苦悩、困難が、患者さんやご家族に降りかかることがあります。自分たちだけでは解決できなくなってしまう方が時にみられます。「がん」以外のいわゆる良性疾患についても同様な苦悩を伴う状況が生じ得ます。患者さんやご家

族がこうした問題を解決し、少しでもより良い生活を送ることができるよう、必要に応じてサポートすることを「緩和ケア」と言います。そしてこの機能を有することが、「地域がん診療連携拠点病院」（拠点病院）の要件として挙げられています。

大垣市民病院は西濃地域における拠点病院として、これまで緩和ケアチーム、がん看護外来、よろず相談センター、がんサロンなどの活動によって、患者さんやご家族の苦悩に対応してきました。これらの業務を集約することにより、さらに充実した緩和ケアを提供できるよう、昨年10月から「緩和ケアセンター」を開設しました。

緩和ケアセンターは、センター長、ジェネラルマネージャー、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師の4名に、医療ソーシャルワーカー2名を加えた計6名のメンバーで構成され、緩和ケアチームのメンバーおよび各病棟リンクナースと連携をとりつつ、病棟主治医・担当看護師と協働して対応していきます。

緩和ケアチームには、身体症状および精神症状をそれぞれ担当する医師、看護師、緩和ケア専門の薬剤師、臨床心理士、リハビリテーション担当の療法士などが含まれ、患者さんやご家族がいろいろな苦悩を解消できるよう、多職種でサポートできる体制となっています。

退院に際し、あるいは外来通院中などに、自宅療養について困難を抱えている場合には、当センターが窓口となり、よりよい療養生活が送れるよう社会資源（地域の在宅医や訪問看護ス

テーションなど）の調整をおこなっていきます。

同じような病気、同じような悩みを有する者同士の情報交換の場として、がんサロン「なごみ庵」が、当院3病棟10階の通院治療センター待合に毎週月・火・木の3日間、開設されています。月曜日には「疾患別お話しサロン」「フアラレンジメント」「俳句教室」「ちぎり絵教室」「タオル帽子教室」などの企画を催していますので、一度参加してみてください。

患者さん、ご家族の目に触れることは無いと思いますが、これまで述べた活動以外に、院内のスタッフ向けの研修会や、地域の医療従事者に対する研修会を開催し、地域全体の緩和医療のレベルアップにも努めています。

今後、仕事に関する問題についても相談を受けつけることができるような体制整備、患者さんご家族の苦悩をもっと積極的にスクリーニングできる体制構築、通院治療センターや栄養管理科などの連携強化、実現可能かどうかは判りませんが、緩和ケア病床開設に向けての準備、開業医師のみでなく病院との連携強化などを通じて、少しでも多くの患者さん・ご家族の悩みや辛さを解消するお手伝いができるよう努力していきたいと考えております。



患者さん・ご家族へのメッセージ

今までの人生や生活で人に相談しなくても、やってこれることが多かったかもしれません。しかし、病気を抱えると、自分ひとりだけでは、対処が難しくなることが多いものです。私たちに相談して頂くことで、ほんの少しのお手伝いで、生活の質がぐっと改善する患者さんやご家族も多くみられます。「こんなことを言っても仕方ないかな？」と心にしまい込まずに、辛いこと、困っていることなどがありましたら、ぜひ主治医や担当看護師、あるいは医療ネットワークセンターにご相談ください。

看護部



看護部の理念

安心と満足につながる
温かな看護の提供

認知症ケアチームの活動紹介

認知症看護認定看護師 鈴木 弥生

多くの急性期病院では、身体疾患の治療のため、しばしば身体的にも精神的にもストレスが生じやすい環境となります。高齢者や認知症をもつ人は、加齢などによる機能低下により環境の変化に適応しにくく、入院を契機にせん妄（興奮したり、混乱して点滴を抜いてしまったりする状態）を発症したり、認知機能の低下（もの忘れや意欲の低下などの症状）や認知症症状の悪化を招きやすくなります。

当院では、高齢者や認知症をもつ人が安心して治療を受けることができるよう、認知症ケアチームが活動を開始しました。認知症ケアチームは様々な職種（精神科医・神経内科医・脳神経外科医・薬剤師・認知症看護認定看護師・脳卒中リハビリター



シオン看護認定看護師・認知症ケア専門士・理学療法士・言語聴覚士・栄養士・医療ソーシャルワーカー）で構成されています。患者さんの認知機能の状態を評価したり、その時の体調に合わせた薬の処方や生活リズムを整えるためのケア方法を提案したりすることで、認知機能の低下や認知症症状の悪化を予防し、スムーズに治療を受けられるような入院環境を提供できるように努めています。

認知症ケアチームはそれぞれの専門性を生かし、主治医や病棟スタッフと協力しながら患者さん一人一人に合ったケアの提供やご家族への支援ができるように、週1回の病棟ラウンドを行っています。ご要望があればいつでも介入させていただきますので、お気軽に病棟スタッフにご相談ください。

No.13 インフルエンザ治療薬



ひと昔前はインフルエンザにかかると、熱があれば解熱剤を使用し、元気がなくなれば点滴をすることができなければ点滴をするなど、その症状を和らげる対症療法がおもな治療法でした。しかし、平成11年に検査キットが、平成12年にリレンザ吸入剤、平成13年にタミフルカプセル・ドライシロップが発売され、早期診断、早期治療ができるようになりインフルエンザ治療が飛躍的に進歩を遂げました。

インフルエンザ治療薬には、右記の2薬剤に加え、その他にシンメトレル錠・細粒、ラピアクタ注射、イナビル吸入剤が当院で採用されており、それぞれの薬剤の特徴について簡単に紹介いたします。

内服薬

・シンメトレル錠、シンメトレル細粒
A型インフルエンザに効果があります。神経系の副作用がみられ、効果が弱いこともあり現在は使用が減っています。

・タミフルカプセル、タミフルドライシロップ

A型・B型に効くインフルエンザ薬です。小児で上手に吸入薬が使用できないケースにはよく使われます。ただし、10歳以上の未成年は重症化したり合併症を引き起こす可能性の高い人を除き、投与を避けるようにしています。

吸入薬

・イナビル吸入剤
A型・B型に効くインフルエンザ薬です。1日1回、1度だけの吸入で済みます。成人は1日1回40mgを、10歳未満の小児では1回20mgを吸入します。

・リレンザ吸入剤

A型・B型に効くインフルエンザ薬です。小児も成人も吸入回数は同じで1日2回の吸入を5日間おこないます。1回吸入するだけのイナビルでは、うまく吸えたかどうか不安になることもあり、複数回吸入ができる点で安心できる方もみえます。

注射薬

・ラピアクタ注射
小児でも用量を調整して使用することが可能です。薬が飲めないような状況や、重症例に使われることが多い薬です。

上手く吸入薬を使用できない乳幼児では、飲み薬であるタミフルドライシロップの方が適しているかもしれません。また、一部のインフルエンザ治療薬には予防に使用されるものもあります。

小児・未成年者にインフルエンザ治療薬を使用した場合は、インフルエンザ脳症の鑑別も含め、保護者は少なくとも2日間患者を1人にしないよう配慮するようにしましょう。

ご不明な点がありましたら
お気軽に薬剤部にご相談ください。



大規模災害による多数傷病者受け入れ訓練（トリアージ訓練）

防災・防犯対策委員会 委員長 鬼頭 晃

大垣市民病院では毎年火災や緊急災害に備えて訓練を行っています。今年度は既に消火訓練、防災救助訓練を行ってきました。11月5日には、今後想定される大規模自然災害や大事故による多数傷病者が同時に発生する災害に備え、各消防組合等と連携して傷病者の救出、救護活動の展開、情報伝達訓練を目的に南海トラフを震源とする巨大地震発生を想定した大規模災害による多数傷病者受け入れ訓練（トリアージ訓練）を行いました。

大規模災害時に病院機能として求められることは preventable death（救えることができた死亡）をゼロにすることです。そのためには対策本部が、本部長（院長）の指揮の下、十分に機能することが必須となります。今回の訓練のキーワードは「寿司安城抱擁場所取り（すしあんじょうほうようばしょとり）」でした。この言葉は災害時に際してとるべき行動の頭の字を並べたものです。即ち「す」：スイッチを入れる。災害可能性の第一報。「し」：指揮系統の確立。「あん」：安全確保。「じょう」：情報収集と通信手段の確保。「ほう」：報告。「よう」：要請、応援要請。「ばしょとり」：指揮所、救護所の設置。です。

訓練では、西濃地域の消防組合の方々、大垣市内の看護学校の学生さんたちの協力のもと200人以上が参加し、比較的円滑に本部が立ち上がり機能して、来院した多数の傷病者に素早くかつ適切に治療優先順位を判断し、それぞれに4色に分かれたタグを付け、各々に分かれた救護所で治療活動を行うことができました。

大垣市民病院では西濃地域の方々の安心と安全を守るため、たゆまぬ努力を行っています。これからも皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。



お知らせ

よろず相談・地域連携課 出前講座

テーマ：「おしえて！ 医療費控除（確定申告）の手続き方法」

医療費控除に関する皆さんの疑問にお答えします。

日時：平成29年1月26日（木）
午後4時～午後5時

場所：3病棟2階 デイルーム

問い合わせ先：よろず相談・地域連携課
内線 6179



テーマ：「おいしく食べたい！ 食事のくふう」

栄養が偏りがち、食欲がない、そんな時の食事の工夫を管理栄養士がわかりやすくお話しします。

日時：平成29年3月23日（木）
午後4時～午後5時

場所：3病棟2階 デイルーム

問い合わせ先：よろず相談・地域連携課
内線 6179

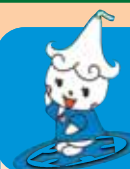


※事前の予約は必要がなく、どなたでも無料で参加いただけますので、多数のご参加をお待ちしております。

大垣市民病院臨床研修の理念

- ◎社会人としての規律を守り、医師として思いやりのある人格を涵養する。
- ◎プライマリ・ケアに必要な幅広い診療能力を修得する。
- ◎チーム医療の一員として、安全・安心・満足の得られる患者中心の良質な全人的医療を実践する。

当院は、臨床研修病院に指定されており、次世代の医師育成のため、上級医の指導のもと研修医の臨床研修及び学生の臨床実習を行っています。



助産師・看護師（正職員・パート）

随時募集

託児所完備

- 応募資格／採用時満55歳までの方（准看護師は45歳までの方）
正職員：助産師、看護師免許取得者
パート：助産師、看護師または准看護師免許取得者
※正職員は夜勤も数回できる方

- 勤務体制／外来または病棟勤務
- 選考方法／書類選考および面接＊面接日などは後日連絡
- 申し込み／助産師、看護師または准看護師免許証の写しと履歴書（写真添付）を大垣市民病院事務局庶務課へ郵送またはご持参ください。
- 問い合わせ先／〒503-8502 大垣市南瀬町4丁目86番地
大垣市民病院 事務局庶務課
☎0584-81-3341 内線 6132・6133

編集後記

「四季の風」57号をお届けしました。次回は4月1日に発行予定です。「四季の風」では、今後とも多くの皆さまの声をお聞きしながら、読みやすい紙面づくりを目指してまいります。ご意見ご要望がございましたらお気軽にお寄せください。

大垣市民病院広報・企画委員会
〒503-8502 大垣市南瀬町4丁目86番地
TEL(0584)81-3341 FAX(0584)75-5715
<http://www.ogaki-mh.jp/>
（電話でのお問い合わせについては、お間違いのないようお願いいたします）